

…日常の何気ない姿の中にある見逃しがちな保育の手がかり…

子どもたちが様々な感覚・感性を働かせ、感じ取ったり気付いたりしている姿から、保育者は「科学する心」を読み取ることができます。子どもの感性を意識することで、日常の保育の場面で見逃しがちな「興味の対象に関わるきっかけ」「遊びが始まるきっかけ」になる言動に焦点が当たり、細やかな記録や考察の事例になります。そして何より、子どもに寄り添い主体性を重視した保育展開に繋がります。

関わり方や遊び方が変わる姿に注目 [4歳児]

空き箱やいろいろな廃材をテープで貼り合わせたり、切り込んだりしながら思い思いに製作遊びを楽しんでいた子どもたち。ペットボトルで水遊びを楽しむ姿が見られるようになる。

プールで遊ぶ船を作ろう

P.4 姿5

「せんせい、糸ガムテープちょうだい」

牛乳パックや空き箱などをどんどん繋げて、子どもたちは大きな船を作っている。

最初はセロハンテープで付けていたが、これではすぐにはずれてしまうと気付く。紙ガムテープで貼りかけたが、今度は上から重ねて貼るとはじけてはがれてしまうことに気付く。

そこで、「糸ガムテープ（布ガムテープ）がいい！」と選んで使い、作り続ける。



みんなの大きな船が完成！

「濡れても大丈夫なモノで作ろう」

子どもたちは「完成した船をプールに浮かばせたい！」と言い、みんなプールへ。大きな船はプールの中で悠々と浮かび、嬉しくなって思わず船にまたがった子どもたち。すると、テープが箱からはがれだし、紙箱は水を吸って破れだす…。たちまち、船はいくつにも分解され、紙くずになってしまった空き箱がプールの中であちこち動いている。がっかりした子どもたちは、みんなでプールの大掃除をした。

その後、「濡れても大丈夫なペットボトルとビニールテープで作ろう！」と言い、船作りをやり遂げる。

感じたこと・気付いたこと・考えたこと

- ・セロハンテープはすぐにはがれる。
- ・紙ガムテープは重ねて丈夫にする貼り方はできない。はじけてしまうようにはがれる。
- ・貼りたい物や貼り方によって、接着に使うものを選ばなければいけない。
- ・大きな船を作るには布ガムテープがいい。

- ・作った船がプールの水に浮く。
- ・テープがはがれている。
- ・水がしみ込んで紙の箱が破れている。
- ・貼り付けて船にしていた物が、バラバラになってプールに浮いたり漂ったりしている。
- ・プールが汚れた。きれいにしよう。
- ・ペットボトルやビニールテープの所は、壊れたりはがれたりしていない。濡れても大丈夫だ。
- ・ペットボトルやビニールテープで作ろう。

【科学する心を育てる】

子どもたちの細やかな感性に注目して、遊びや興味の対象に関わるきっかけを見取るとは、「科学する心」を育む場面を把握して保育の工夫を図る手がかりになる。

子どもの「感じたこと・気付いたこと・考えたこと」に寄り添う保育は、子どもの体験の充実や保育の質の向上に結び付く。

【考察】 子どもたちは何度も繰り返し遊び、感性が育まれることで、自分の“モノとの関わり方”による失敗や成功の違いに気付く。失敗を感じても、さらにいいモノや、面白い遊び方になるように関わろうと、遊びへの意欲が高まっている。モノと関わり探求が深まることで、遊びの質が向上し、子どもたちの体験はより豊かになっている。